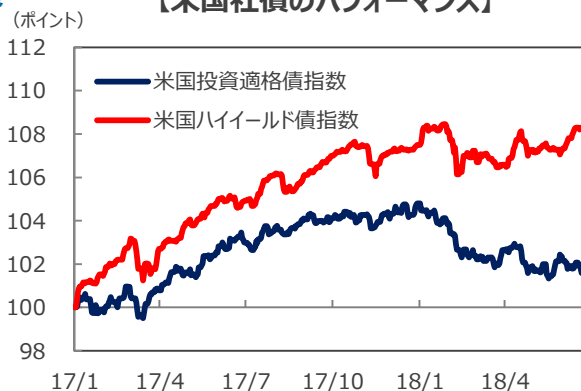


今日のトピック 米国社債市場の動向（2018年6月） 底堅く推移するハイールド債、高い利回りが魅力

ポイント1 底堅く推移するハイールド債 利回り格差の拡大も小幅にとどまる

- 米国社債トータル・リターン指数の6月27日までの年初来騰落率は、投資適格債が▲2.7%と低下したのに対し、ハイールド債は+0.4%と小幅ながら上昇しました。
- 社債スプレッド（国債と社債の利回り格差）も広がりつつありますが、投資適格債のスプレッドが昨年末比で+0.35ポイント広がったのに対し、ハイールド債は+0.13ポイントの拡大にとどまっています。

【米国社債のパフォーマンス】

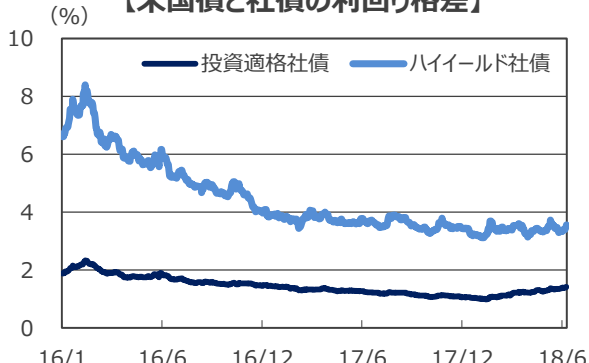


(注) データは2017年1月1日～2018年6月27日。(年/月)
2017年1月1日 = 100として指数化。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセット
マネジメント作成

ポイント2 相対的に高い利回りが魅力 FRBによる利上げのペースは緩慢

- 米景気・雇用の順調な拡大を背景に、米連邦準備制度理事会（FRB）は金融緩和の解除を進めていますが、インフレ率が低い水準で落ち着いていることから、利上げの速度は緩やかなものとなっています。
- こうしたなか、相対的に利回りの高い社債への需要には、根強いものがあります。しかも、企業業績が堅調に推移し、デフォルト（債務不履行）率も低位で安定しているため、社債の中でも利回りのより高いハイールド債への注目が集まっていると考えられます。

【米国債と社債の利回り格差】



(注1) データは2016年1月1日～2018年6月27日。(年/月)
(注2) 利回り格差は、社債利回り-国債利回りの差。
Bloombergバークレイズ米国社債指数ベース。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセット
マネジメント作成

今後の展開 ハイールド債は底堅い展開へ

- インフレが落ち着いていることを踏まえると、今後ともFRBによる利上げは緩やかなものとなる可能性が高いと考えられます。従って、国債利回りの急激な上昇は、避けられる見通しです。
- 景気拡大、減税効果により、企業業績は堅調を維持する見通しです。これはハイールド社債のスプレッド拡大の抑制要因となります。今後、ハイールド社債は底堅い展開が続くと予想されます。

ここも
チェック! 2018年6月19日 米国FOMCの最新『ドット・チャート』は？（18年6月）
2018年6月14日 利上げを進める米国の金融政策（2018年6月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。